

日本国内開発の大規模言語モデルの現状と今後（2025年以降）

日本では、ChatGPTなど海外発のLLM（大規模言語モデル）が注目される中、セキュリティや日本語特有の表現への対応など国内ニーズに応えるべく、自国開発のLLMが相次いで登場しています。特に **Tsuzumi（鼓）**、**cotomi（コトミ）**、**Sarashina（更科）**、**ELYZA** は、2025年以降に大きな進展を見せた代表的なモデルです。それぞれの開発元・概要、最新の動向、連携状況、国際競争力、そして将来展望についてまとめます。

Tsuzumi（NTT）

- ・**開発元・概要**：TsuzumiはNTTがゼロから開発した日本語特化のLLMで、2023年に初版を公開しました¹。日本の企業・自治体による安全な活用を念頭に置き、**高い日本語処理能力**を持ちながら**シングルGPUで動作可能な軽量モデル**として設計されています²³。モデル名は日本の伝統楽器「鼓」に由来します。最新バージョンの**Tsuzumi 2は約286億パラメータ**で、1兆トークン以上の多言語コーパス（高品質な日本語データ重視）で訓練されています⁴。トークナイザから日本語文法構造を考慮するなど日本語に最適化され、英語等への対応力も持つモデルです⁵。
- ・**2025年以降の進展**：2025年10月にTsuzumi 2が提供開始され、世界的なモデルにも匹敵する日本語能力を実現しました⁶。同程度の規模のモデル中では**世界トップ水準の日本語性能**を達成し、知識検索、分析、指示への応答、安全性といったビジネス基盤能力で、数倍大きいモデルと同等以上の結果を示しています⁶。また金融・医療・公共分野の知識を強化し、各領域での専門タスクにも高精度で対応可能となりました。社内評価では金融システムの問合せ応答で外部先端モデルを上回る性能を確認しています⁷。こうした性能向上にもかかわらず、**推論は従来同様1台のGPUで可能**であり、コストと消費電力を抑えられる点が継承されています⁸。実際の事例として、東京オンライン大学では機密データを学内に留めたオンプレミス環境でTsuzumi 2を導入し、講義のQ&A高度化や教材作成支援、履修・就職相談などに活用しています⁹。
- ・**企業・教育機関・政府との連携**：NTTは自社グループ内外へのAIソリューション展開を進めており、**企業や自治体との連携事例**も生まれています。例えばNTTドコモ子会社と富士フイルムビジネスイノベーション社は、Tsuzumi 2を基盤とする生成AIソリューションの共同開発に着手しました。富士フイルムのAI技術ブランド「REILI」で培った契約書・提案書等の非構造データを構造化する技術と、Tsuzumi 2の高性能かつ安全な生成AIを組み合わせることで、**企業文書・画像の分析を高度化するソリューション**を目指しています¹⁰¹¹。またNTTは地方自治体との協業にも取り組み、2023年の初版提供以来、**国内企業や自治体によるAI導入**をTsuzumiで後押ししてきました¹。教育分野では前述の大学導入例があり、今後も官民連携で安全な生成AI活用基盤を構築しています。
- ・**国際競争力・海外展開**：Tsuzumiは「純国産AI」として位置づけられ、データの学習から運用まで日本国内で完結する強みを持ちます¹²。これにより**機密情報の安全な取り扱い**や日本語の微妙なニュアンス理解で優位性を発揮し、海外LLMへの依存軽減に貢献しています¹³。NTTの評価によれば、ビジネス領域の日本語タスクで**GPT-4級モデルに匹敵する精度**を示しており¹⁴、国際的なモデルと比肩する性能を国内リソースで実現しています。現状、Tsuzumiは主に国内企業・自治体向けソリューションとして展開されており、**積極的な海外展開は行われていません**。しかし2025年12月にはNeurIPS（世界的AI学会）で研究発表され、海外の研究者にも存在が知られるなど、技術的な国際評価も高まりつつあります⁴。

- ・**今後の開発計画・見通し**：NTTはTsuzumi 2の提供開始とともに、グループ横断でソリューション展開を加速させると表明しました¹⁵。具体的には、**サイバーセキュリティ分野への適用**や、複数AIが自律協調・討論できる「AIコンステレーション」の開発を進め、新たな価値創出と顧客体験の向上を図る計画です¹⁶。2025年11月のNTT R&Dフォーラムでは、Tsuzumi 2を活用した最新ソリューションが展示されました¹⁷。今後もNTTはTsuzumiシリーズの研究開発を継続し、日本語LLMの性能向上と応用範囲拡大に努めるとみられます。将来的にはTsuzumi 3など後継モデルの開発や、複数領域に特化したモデル派生も予想され、**国内LLMのリーダー企業として国際水準のAIを提供し続ける見通し**です⁶⁷。

cotomi (NEC)

- ・**開発元・概要**：**cotomi (コトミ)**はNECが開発した生成AI/LLMのコア技術名称で、「言葉で未来を示し、事が実るように」という思いを込め命名されました¹⁸。2023年8月に高性能な日本語LLMとして提供開始され、国内企業による利用検証が他社に先駆けて数多く進んでいます¹⁹。ビジネス利用を念頭に、**優れた日本語能力と業務システム連携に適した高速性を両立している点**が特徴です¹⁸。クラウド環境だけでなく**専用ハードウェアや閉域ネットワーク上でも動作し**、顧客要件に合わせて提供形態を柔軟に選択可能なアーキテクチャとなっています²⁰。2024年には国内における日本語LLMとしての先進性が評価され、MM総研大賞2024スマートソリューション部門（日本語LLM分野）で**最優秀賞**を受賞しました²¹。
- ・**2025年以降の進展**：2024年末から2025年にかけて、cotomiは技術面・サービス面で大きく進化しました。**2024年11月**にはモデルの性能強化を実施し、日本語ベンチマーク「Japanese MT-Bench」にて**GPT-4やClaude等グローバルトップクラスのLLMに匹敵する精度**を達成しています¹⁴。それだけでなく、主要な商用LLMの約2倍という**圧倒的な推論速度**を実現し、精度と高速性を両立させました¹⁴。この強化版cotomiは2024年12月より提供が開始され、専門性の高い業務の自動化を現実的なものにしています²²¹⁴。さらに推論時の**GPU演算効率を2倍に高める技術**も開発され、モデル性能を維持しつつ消費電力とハード要件を大幅に削減可能となりました²³。これにより少ないGPUで済む省電力なAI環境を実現し、昨今のGPU不足問題への対策ともなっています²³。NECは生成AI関連事業で**2025年度末までに約500億円の売上**を目標に掲げており²⁴、cotomiを核とした事業拡大に注力しています。
- ・**企業・教育機関・政府との連携**：NECはcotomiを活用した多数の協業・サービスを展開しています。**2024年11月**にはさくらインターネットと生成AIプラットフォーム領域で協業を開始し、国内クラウド基盤との連携を強化しました²⁵。**2025年1月**には大塚商会と提携し、オンプレミス環境向けの生成AIサービス「**美琴 powered by cotomi**」を提供開始しています²⁶。これにより企業は自社内に閉じた環境でcotomiの機能を利用できるようになりました。また**2025年8月**にはGoogle Cloudとの包括的協業を発表し、AIエージェントを起点としたエコシステム構築で協力しています²⁷。さらに**2025年3月**にはシスコシステムズとAIガバナンス分野で協業するなど²⁸、海外企業とも連携しながら安全な生成AI活用支援サービスを強化しています。金融や製造業界向けにも、たとえば独Celonis社との業務プロセス×生成AIの実証実験（2024年5月）²⁹や、京都中央信用金庫へのサービス提供（2024年4月）³⁰といった実績があります。官公庁との直接連携事例は公表されていませんが、公共分野でもNECの実績・ノウハウを活かした提案が行われており、**行政機関向けソリューション（自治体コンタクトセンター支援など）**も視野に入れサービス提供が進められています³¹。
- ・**国際競争力・海外展開**：cotomiは日本語処理に特化したモデルではありますが、その**精度・速度は世界水準**であり、日本発モデルとしてグローバルに見ても遜色ない性能を備えています¹⁴。特にJapanese MT-BenchでGPT-4等に匹敵するスコアを示した点は、日本語LLMの競争力を示すものです¹⁴。一方で、cotomi自体はNECの国内顧客向けソリューションとしての位置づけが強く、現時点で海外市場に独自展開している例は多くありません。NECは**Azure OpenAIサービス**や各種オープンモデルも組み合わせて提供しており³²³³、顧客ニーズに応じて国外LLMも補完的に活用する姿勢です。

ただしNECは2025年にIDCの「Japan AIサービス市場評価」でリーダーに選出されるなど³⁴、AIサービス企業として国際評価も得ています。今後、日本語に強いcotomiを武器に、必要に応じ海外拠点企業への展開や多言語展開の可能性も考えられますが、基本方針は「日本の企業を日本発の技術で支える」点にあります³⁵。

- ・**今後の開発計画・見通し**：NECは自社の価値創造モデル「BluStellar」を掲げ、cotomiをキー技術として各業界のDX（デジタルトランスフォーメーション）を支援しています³⁶。今後は、**AIエージェント技術の実用化**が一つの柱です。2025年には高度専門業務を自動化するAIエージェントの提供を開始し³⁷、ユーザーが目的を入力すればサーチから計画立案・実行まで自律処理する**Agentic AI**の実装を進めています³⁸。また、生成AI活用におけるリスク管理（AIガバナンス）サービスも整備し、企業が安心して生成AIを導入できる環境を提供していく方針です³⁹⁴⁰。cotomi自体のさらなる高性能化も予想され、将来的にはパラメータ数の増大や新アーキテクチャの採用も視野にあるでしょう。NECは「AIをより身近で快適に使える環境の実現」を掲げており⁴¹、2025年以降も性能向上と省電力化を両立する研究開発を継続すると見られます。これにより、日本発のLLMとして国内外で存在感を高め、他社モデルとの差別化を図っていく見通しです。

Sarashina（ソフトバンク/SB Intuitions）

- ・**開発元・概要**：Sarashina（更科）はソフトバンク株式会社の子会社であるSB Intuitions社が開発した純国産の大規模言語モデルです⁴²。日本語における卓越した性能と、日本固有の文化・ビジネス慣習への深い理解力を備えており⁴³、**高度な日本語応答能力**が特徴です。主モデルである「Sarashina」本体は推定**4,600億パラメータ規模**にも及ぶ超大型モデルで、その知見を活かした軽量版が「Sarashina mini」として開発されています⁴³。ソフトバンクは自社の通信ネットワーク運用高度化のために、業界特化型の生成AI基盤「Large Telecom Model (LTM)」を構築しており、2025年にSarashinaをLTMに統合することで**日本国内完結のAIモデル**へと進化させました⁴²。これにより、広範な自社ネットワークデータと長年の運用ノウハウを用いて、日本国内のデータセンター内で訓練・推論を完結する**高信頼なAI基盤**を実現しています⁴⁴⁴⁵。
- ・**2025年以降の進展**：2025年10月にソフトバンクはSarashinaを組み込んだLTMの社内運用を開始しました。大規模イベント時の通信品質予測にAIを活用したところ、実測値と比較して**90%以上の的中率**を達成し、ネットワーク運用の効率化・高精度化に寄与しています⁴⁶。また強化学習の手法も取り入れ、AIが自律的に学習・最適化する環境を構築することで、ネットワーク最適化能力の継続的な向上を図っています⁴⁷。2025年11月には、ソフトバンクとSB Intuitionsが企業向けに「**Sarashina API**」の提供を発表し、同年11月28日よりサービス開始しました⁴⁸。Sarashina miniへの接続を可能にするこのAPIでは、自然な対話文を生成する**Chat Completion機能**と、テキストの意味的なベクトル表現を提供する**Embeddings機能**の2つを備えています⁴⁹。企業はこのAPI経由で、自社システムからSarashina miniを利用し、文書の校正・要約、自動レポート・議事録生成、プログラミング支援、さらには**複数AIエージェントが協調して課題解決するシステム**の構築などが可能になります⁵⁰。商用提供に先立ち、ソフトバンク社内約2万人を対象に2025年6月からトライアル運用を実施し、モデルの精度向上や機能改善を図ってきました⁵¹。さらに**2025年9月**には電通・電通デジタルと共同で**日本語広告コピーに特化した生成AI**の研究開発を開始し、Sarashinaをベースに実際の広告文章データで追加学習（SFTやDPO技術）することで、日本語の微妙なニュアンスを表現できるコピーライティングAIを目指す取り組みも進んでいます⁵²⁵³。
- ・**企業・教育機関・政府との連携**：企業連携では、上述の電通グループとの共同研究が象徴的です。広告クリエイターの発想や表現ノウハウとSarashinaの言語能力を組み合わせ、魅力的な日本語コピーを自動生成することで、新たなマーケティング支援ツールの創出を目指しています⁵²⁵⁴。ソフトバンクはまた、2023年にOpenAIとの戦略的パートナーシップを結成するなど海外AI企業とも関係を持ちつつ、自社開発LLMの強化を進めています（参考：OpenAIへ出資・合併の報道など）。**官公庁・研究機関との関わり**は直接は明らかでないものの、ソフトバンクは日本政府のAI戦略にも呼応して国

内AIインフラ拡充に投資しており、2025年までに約1500億円規模をAIコンピューティング基盤に投じています⁵⁵。その一環でNVIDIAの最新スーパーコンピュータを国内最大規模で導入し、将来的に**1兆パラメータ級の日本語特化LLM**開発も視野に入れているとされています⁵⁶。学術面では、SB Intuitionsが研究用にいくつかの日本語モデルを公開してきた実績があり、国内大学や研究機関との協力も進めているとみられます。例えば先述の広告AI開発には東京大学松尾研の知見が活用されており⁵⁷、産学連携でモデルの専門領域適応が進んでいます。

- ・**国際競争力・海外展開**：Sarashinaは**日本発の基盤モデル**として、「日本語の複雑な文脈や専門用語を正確に理解・生成できる」という点でユニークな強みを持ちます⁵⁸。これは従来の英語訓練中心のLLMには難しかった領域であり、国内市場における競争力のみならず、日本語ニーズのある海外日系企業などにとっても価値があります。ソフトバンクはSarashina統合によってLTMを完全内製化し、ライセンスや規制上の課題もクリアした安全な運用を実現しました¹³。このように**データを国内完結で処理できる利点**は、欧米のクラウドLLMとの差別化ポイントであり、日本企業の国際展開時にもデータ主権を守る観点で有利に働きます。もっとも、Sarashina自体は現時点では国内企業への提供が中心で、**積極的な海外市場展開の事例は限定的**です。将来的には、例えばソフトバンクが展開する海外通信事業（子会社など）で日本語対応AIとして活用したり、Sarashina APIを国際化して多言語展開する可能性も否定できません。しかし主眼はあくまで「**日本語に特化した国産AI基盤**」であり⁵⁹、海外LLMとの競争においてもその点で独自ポジションを築いています。
- ・**今後の開発計画・見通し**：ソフトバンクおよびSB Intuitionsは、Sarashina miniの機能強化と対象ユーザ拡大を継続していく方針です。**企業向けから一般ユーザへ**と段階的に提供範囲を広げていき⁶⁰、自社モデルの普及を図る見通しです。また、業種ごとの日本語特化LLMを開発し、多様なビジネスニーズに応じたソリューションを提供すると表明しています⁶⁰。実際、通信分野以外にもコンタクトセンター向けや広告・マーケティング向けなど、順次新たな領域への適用が計画されています³¹。ハード面では、国内有数のAIデータセンターを構築し、より大規模なモデル（**1兆パラメータ級**）の研究開発も進めるとされています⁵⁶。このようにSarashinaは**スケール拡大と応用特化の二方向**で進化していく見込みであり、日本のAI技術の国際競争力向上に寄与していくでしょう。

ELYZA（エリザ）

- ・**開発元・概要**：ELYZAは東京大学・松尾豊研究室発のスタートアップ企業で、**日本語特化の生成AIモデル**および関連サービスを開発しています⁶¹。社名およびモデル名のELYZAは、近年KDDIグループとの資本業務提携により注目を集めました。**2024年4月**にKDDIが出資比率を引き上げ（KDDI本体43.4%、KDDI子会社10.0%取得）、ELYZAはKDDIの連結子会社となっています⁶²。これにより大手通信事業者の支援を受け、研究開発リソースや商用展開力が大幅に強化されました。ELYZAのLLMはオープンソースモデルを基に日本語対応を施したものが多く、2023年にはMeta社のLlama 2を日本語チューニングした**ELYZA-japanese-Llama-2**シリーズ（7億パラメータモデルや130億パラメータモデルなど）を相次いで公開しています⁶³⁶⁴。特に**7億パラメータ版**は独自の追加学習・後処理によりGPT-3.5相当の性能を発揮したと報じられました⁶³。その後もモデル規模を拡大し、**2024年3月**には**700億パラメータ**規模で国内最高水準・グローバルモデルに匹敵する日本語能力を持つモデルを開発したと発表しています⁶⁵。現在の最上位モデルは約70億～700億パラメータ級で、**日本語話者にとって自然な対話**や**日英翻訳**などの機能を持ち、チャットボット「ELYZA Chat」としても提供されています⁶⁶⁶⁷。
- ・**2025年以降の進展**：ELYZAは国主導の研究プロジェクトにも参画し、大規模モデルの社会実装を推進しています。**2023年度第3次補正予算**で内閣府が立ち上げたSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）では、「統合ヘルスケアシステム構築における生成AI活用」の一環として**医療特化LLMプラットフォーム**開発を担いました⁶⁸。ELYZAは松尾・岩澤研究室（東大）やさくらインターネット研究所、ABEJA社と協力し、**日本版医療LLM「ELYZA-LLM-Med」**シリーズを開発。【2025年7月】時点で日本国内の総合評価で最高性能を達成し、臨床現場の具体的課題においても**世界トップレベルを上回**

る精度を実証しています⁶⁹。例えば医療文書の要約や専門知識の応答タスクで、グローバルな先端モデルを凌ぐ正確性を示しました⁶⁹。この開発では、個人情報扱う際に理研のセキュア環境で検証を行い、国際医療福祉大学病院や藤田医科大学病院など複数の医療機関と連携してデータ収集・モデル評価を実施しています⁷⁰。成果はモデルシリーズとして公開され、汎用LLMの領域特化手法として他分野にも横展開可能な知見を残しました⁷¹。またELYZAは2024年3月のKDDI提携以降、企業・自治体向けのサービス提供を本格化しています。KDDIグループの計算基盤・ネットワーク資源と、ELYZAのLLM開発力を組み合わせることで、生成AIの社会実装を加速する計画が進行中です⁷²。具体的には、(1)オープンモデル活用型の日本語汎用LLM開発、(2)業種・領域特化LLMの開発、(3)生成AI活用のDX支援・AI SaaS提供、の3つのサービスを2024年春から順次開始するとしています⁷³。例えばKDDI子会社のアルティウスリンク社と連携した**コンタクトセンター特化型LLM**の開発計画があり、自治体・企業のコールセンター業務DXへの適用が検討されています³¹。このように、大手通信キャリアの支援の下、ELYZAの技術は実ビジネスへの組み込みが進みつつあります。

- ・**企業・教育機関・政府との連携：官民学連携**がELYZAの特徴で、前述のSIPプロジェクトでは政府支援の下、企業（さくらインターネット、ABEJA）、大学（東大松尾・岩澤研）、研究機関（理研）、医療機関との大規模共同研究を成功させました⁷⁰。これにより、日本初の医療LLMプラットフォーム構築という社会実装に貢献しています。またKDDIとの提携によって、通信業界との産業連携が強化されました。KDDIは生成AIの利活用を促進するため**人材組織を共同設置**し、自治体や企業への適用支援を開始するとしています⁷⁴。今後、金融・小売など他業種にもパートナー企業と連携してサービス展開予定であり³¹、ELYZAは各業界プレーヤーとの協業を広げています。学術面では、ELYZAの起源が大学研究室であることから**オープンサイエンス志向**が強く、自社モデルをHugging Face等で公開しコミュニティと知見を共有してきました。例えば前述のLlama 2ベースのモデル群もインターネット上で公開されており、Matsuo Lab発のスタートアップとして研究界と産業界の橋渡的存在となっています⁶¹。教育機関との直接提携事例は少ないものの、社内に東大発メンバーが多数所属しており、**人材育成・共同研究**の観点でも学界との繋がりが深いと言えます。

- ・**国際競争力・海外展開**：ELYZAの開発するモデルは、日本語に最適化されつつも**オープンソースコミュニティ**のエコシステムに支えられています。Llama 2やQwenといった海外のオープンモデルを取り込みつつ日本語特化調整することで、最新技術を日本語圏にもたらす役割を果たしています⁷⁵⁷⁶。2024年時点でELYZAの最大モデルは約700億パラメータで、OpenAIのGPTシリーズ（数百億～数千億パラメータ）との差はあるものの、中長期的にパラメータ数を増やして差を縮める見込みとされています⁷⁷。日本語特有の表現力ではChatGPT等に劣らないとの評価もあり、**日本語ユーザーにとって使いやすいAI**として差別化しています⁷⁸。海外展開に関しては、ELYZA自体が日本市場にフォーカスした企業であるため、積極的なグローバルマーケティングは行っていません。しかしモデル公開により国外の開発者もELYZAモデルを入手可能であり、実際に英日翻訳やクロスリンガル評価などで海外コミュニティからも利用されています（例：Matsuo研とAWSがELYZAモデルを用いた推薦システムを開発⁷⁹）。またKDDIとの協業を通じ、将来的にKDDIの海外拠点やグローバル事業（通信ローミング等）で日本語LLMをサービス展開する可能性もあります。総じてELYZAは「**日本生まれの技術を日本語圏の利便性向上に役立てる**」姿勢であり⁷⁸、国際競争力の面では国内需要における優位性に重きを置いています。

- ・**今後の開発計画・見通し**：ELYZAは「**生成AIの社会実装を促進し、日本の自然言語処理技術の発展に寄与する**」ことをミッションとして掲げています⁸⁰。今後は、KDDIグループの支援のもと大規模モデルの更なる高度化と、各産業領域への展開を並行して進める計画です。具体的には、(1)オープンモデルを活用した日本語汎用LLMの高度化（例：最新のLlamaや他の基盤モデルへのアップグレード）、(2)医療で成果を上げた専門特化モデル開発手法を他分野（金融、法務、接客など）に横展開、(3)生成AIを組み込んだ業務支援ソリューションやSaaSの充実、といった取り組みが予想されます⁷³。またELYZA自身が言及している**AIエージェント技術の研究**も進行中であり⁸⁰、将来的には対話エージェントや自律的なタスク実行AIへの発展も視野に入れていると考えられます。研究成果は可能な限り公開する方針であるため⁸⁰、新たなモデルやデータセットがコミュニティに共有され、日本

全体のLLM開発基盤を底上げする効果も期待できます。総じて、ELYZAは**スタートアップの俊敏性と大企業(KDDI)の資源**を併せ持つ体制で2025年以降を迎えており、国内LLMのイノベーションをリードしながら国際水準へのキャッチアップ・超克を目指していきましょう ⁶⁵ ⁷⁷。

以上のように、日本国内で開発された大規模言語モデルは、それぞれ異なるバックグラウンドと強みを持ちながら、2025年以降急速に進歩しています。NTTのTsuzumiやNECのcotomiは国内大企業による**エンタープライズ志向の高性能モデル**として、実ビジネスや自治体への導入が進みました。一方、ソフトバンク系のSarashinaは**通信インフラ×生成AI**の新たな活用例を示し、研究開発を経て商用サービス提供へ移行しています。またスタートアップ発のELYZAは**オープンソース活用と産学官連携**によって、日本語LLM分野で柔軟なイノベーションを起こしています。政府の支援策や国内企業の積極的な投資も追い風となり、各モデルは日本語における性能向上のみならず、エージェント化・専門特化・省エネ化など次の課題に挑戦しています。現時点で海外展開は限定的ながら、「**日本発のLLMを自国の強みに育てる**」戦略の下で国際競争力を高めており、今後それぞれのモデルがグローバル市場でも存在感を示す可能性があります。引き続き、日本国内のLLM開発動向と各モデルのアップデートに注目が集まっています。 ⁶ ⁶⁹

¹ ² ³ ⁶ ⁷ ⁸ ⁹ ¹⁰ ¹¹ ¹⁵ ¹⁶ ¹⁷ ³⁵ NTT's Next-Generation LLM "tsuzumi 2" Now Available ~Supporting Japan's corporate digital transformation with a high-performance, high-security, low-cost purely domestic LLM~ | Press Release | NTT
<https://group.ntt/en/newsrelease/2025/10/20/251020a.html>

⁴ ⁵ NeurIPS Talk tsuzumi: Advanced and Sovereign Japanese LLM
<https://neurips.cc/virtual/2025/loc/san-diego/talk/127804>

¹² ¹³ ⁴² ⁴⁴ ⁴⁵ ⁴⁶ ⁴⁷ ⁵⁸ SoftBank Corp.'s Large Telecom Model—a Generative AI Foundation for the Telecom Industry—Evolved into a Domestic AI Model and Launched for Internal Use | About Us | SoftBank
https://www.softbank.jp/en/corp/news/press/sbkk/2025/20251029_01/

¹⁴ ²² ²³ ²⁴ ³⁶ ⁴¹ NEC、高度な専門業務活用に向けてcotomiを強化 圧倒的な高速性を維持し世界トップレベルの精度を実現 (2024年11月27日): プレスリリース | NEC
https://jpn.nec.com/press/202411/20241127_02.html

¹⁸ ¹⁹ ²⁰ ²¹ NEC開発の生成AI「cotomi」がMM総研大賞2024のスマートソリューション部門日本語LLM分野で最優秀賞を受賞 | 日本電気株式会社のプレスリリース
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000624.000078149.html>

²⁵ ²⁶ ²⁷ ²⁸ ²⁹ ³⁰ ³² ³³ ³⁴ ³⁷ ³⁸ ³⁹ ⁴⁰ 生成AI | NEC
<https://jpn.nec.com/LLM/index.html>

³¹ ⁶² ⁶⁵ ⁷² ⁷³ ⁷⁴ ELYZAとKDDIグループ、生成AIの社会実装に向け資本業務提携を締結 | 2024年 | KDDI株式会社
<https://news.kddi.com/kddi/corporate/newsrelease/2024/03/18/7333.html>

⁴³ ⁴⁸ ⁴⁹ ⁵⁰ ⁵¹ ⁶⁰ SoftBank Corp. and SB Intuitions Launch "Sarashina mini" API for Enterprise Use | About Us | SoftBank
https://www.softbank.jp/en/corp/news/press/sbkk/2025/20251105_01/

⁵² ⁵³ ⁵⁴ ⁵⁶ ⁵⁷ ⁵⁹ Dentsu, Dentsu Digital, SoftBank Corp., and SB Intuitions Launch Joint Research on Generative AI Specialized in Japanese Copywriting - News - DENTSU INC.
<https://www.dentsu.co.jp/en/news/release/2025/0925-010948.html>

⁵⁵ SoftBank integrates Sarashina LLM into Large Telecom ...
https://www.linkedin.com/posts/softbank-research-institute-of-advanced-technology_softbank-researchinstituteofadvancedtechnology-activity-7389088587289444354-3uq9

61 64 66 67 75 76 77 78 What is ELYZA? Exploring the Japanese Large Language Model: Features, Capabilities, and How to Use It | Let's learn about the latest generating AI | Fotographer.ai - Your image generator tool

<https://fotographer.ai/magazine/020>

63 ELYZA Releases Japanese LLM Based on Llama 2, with 7 Billion Parameters, Competing with GPT-3.5

<https://news.aibase.com/news/1256>

68 69 70 71 80 ELYZA Unveils Japanese Medical LLM Platform "ELYZA-LLM-Med"

<https://itbusinesstoday.com/health-tech/elyza-develops-japan-focused-medical-llm-platform/>

79 Unlocking Japanese LLMs with AWS Trainium: Innovators ...

<https://aws.amazon.com/blogs/machine-learning/unlocking-japanese-llms-with-aws-trainium-innovators-showcase-from-the-aws-llm-development-support-program/>